

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 山梨英和中学校・高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒400-8507

山梨県甲府市愛宕町112

E-mail js-info@yamanashi-eiwa.ac.jp

Website http://www.yamanashi-eiwa.ac.jp

幼児児童生徒数 男子 名 女子 495 名 合計 495 名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「敬神・愛人・自修」を学校理念として、ESDを本校の建学の精神に合致するものと捉え、ESDの実践を通して以下の力の育成を目標とした。

- ・自分で感じ、考える力
- ・問題の本質を見抜く力/批判する思考力
- ・気持ちや考えを表現する力
- ・多様な価値観をみとめ、尊重する力
- ・他者と協力してものごとを進める力
- ・具体的な解決方法を生み出す力
- ・自分が望む社会を思い描く力
- ・地域や国、地球の環境容量を理解する力
- ・みずから実践する力

具体的には、

- ①語学教育、②国際理解・平和教育、③ボランティア活動、④批判的思考育成に係わる教育、⑤環境教育を実践した。

① 語学教育

1) カナダ研修

7月31日～8月16日に実施され、中学3年生27名、高校1年生8名が参加した。ブリティッシュ・コロンビア州で2週間にわたり英語学習を実施した。ファーストネイションズと呼ばれる先住民の民族の文化について学んだ。研修中に、バンクーバー近郊の日系人高齢者施設を訪れ、交流の時を持った。

2) 英語劇

1月26日(金)に英語劇の発表会があり、中学全クラスがそれぞれ英語劇を上演した。

② 国際理解・平和教育

1) 「世界一大きい授業」

5月27日、中学全学年で「世界一大きい授業」を実施した。地雷撤廃に向けて活動しておられる清水俊宏先生を講師にお招きし、世界における地雷の現状をアクティビティも交えながら講演していただいた。

2) JICA マレーシア研修

3月25日～29日に実施され、中学1年生から高校2年生まで合計47名が参加する。マレーシアの諸問題を解決するため日々活動している国際協力現場を視察し、国際問題と国際協力について深く考える。

3) 台湾の訪問団との交流

4月19日に台湾の「天主教文興高級中學高校」の生徒、教員が本校を訪問した。中学2年生との合同授業で本校の生徒達が準備した英語ご当地クイズを行った。

③ ボランティア活動

1) 清掃活動

10月21日毎日新聞社の環境美化運動「全国一斉掃除デー」の一環として、学校周辺のゴミ拾いを行った。

2) 復興支援

10月14日、蕪崎市穴山町で開かれた2017サンマ祭りに中高あわせて29名がボランティアとして参加した。東日本大震災で被災した宮城県気仙沼の漁師がとったサンマを販売し、復興支援を行った。

3) 炊き出し、配食

YWCA ひまわり部のメンバーが、「配食サービスをすすめる会」の手伝いをして、週に2回近隣の高齢者に配食を行った。また、同部は甲府カトリック教会で行われている炊き出しに週に1回参加した。

4) 「高校生ボランティアアワード2017」に参加

8月9日(水)～10日(木)、風に立つライオン基金(2015年にさだまさし氏によって設立、生命や平和を守るために活動する個人・団体を応援する組織)主催「高校生ボランティアアワード2017」にYWCA ひまわり部のメンバー6名が参加し、日頃の活動を発表した。

④ 批判的思考育成に係わる教育

1) Global Studies I (学校設定科目)

高校1年生グローバルスタディーズクラスを対象に、地域の問題に目を向け、甲府市中心街の活性化を教材として問題解決に挑戦した。中心市街地活性化アイデアコンテストにおいて、グランプリ(知事賞)を受賞した。また、9月15日に国連大学にて、地球環境パートナーシッププラザの協力により、国連の取り組みとSDGsに関する講義を受け、JICA地球広場にてSDGsに関する展示を見学し、青年海外協力隊員による講義を受けた。

2) Global Studeis II (学校設定科目)

高校2年生のグローバルスタディーズクラスを対象に、SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」に関連する「防災」に焦点を当て、「甲府市の防災について」をテーマに課題研究を行った。その上で、地域自治会との連携を図ったり、山梨大学のアドバイザー制度を利用し、指導担当教員が山梨大学工学部土木環境工学の秦康範准教授の指導を仰いだ。

⑤ 環境教育

1) 環境調べ学習

中学3年次で全員が環境に関して調べ学習を実施し、その成果をポスターで発表した。高校1年次、高校2年次では、環境をテーマに課題研究を実施し、成果をポスターにまとめ日本語または英語で発表した。自然科学部は、富士山北麓と八ヶ岳南麓のササラダニ類による森林環境評価、富士山5合目の植生とササラダニ遷移、梨ヶ原を流れた溶岩流とササラダニ群集、梨ヶ原の野焼きによる昆虫類、トビムシ類への影響に関する研究を行い、以下の賞をいただいた。

- ・環境科学会 2017 年会 優秀発表賞
- ・第 38 回山梨県高等学校芸術文化祭自然科学部門教育長奨励賞

また、昨年度に引き続き、研究の成果として生成したバイオディーゼル燃料を使って、クリスマスツリー点火式を行った。

2) ドイツ研修

10月4日～11日に実施され、高校2年の理系クラス17名が参加した。環境先進国ドイツで、環境に配慮した技術や施設を見学した。姉妹校シュテッテン・ギムナジウムで研究発表を行い理科の授業に参加した。ホームステイを体験し、ドイツの家庭における環境保護意識を調査した。

①語学教育(カナダ研修) ②国際理解・平和教育(マレーシア研修)



③ボランティア活動(復興支援) ④批判的思考育成(GS研修) ⑤環境教育(富士山)



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<http://www.jnne.org/gce/> <https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>
<https://unstats.un.org/sdgs/files/report/2017/TheSustainableDevelopmentGoalsReport2017.pdf> 他多数

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

持続可能な社会の構築について課題研究を通して学ぶ取組を実施している。高校1年の学校設定科目「Global Studies I」（1単位）では、地球規模の諸問題を教材として批判的思考力を育成し課題研究の基礎を身につけた。アプローチのひとつとして、持続可能な開発目標（SDGs）を取り上げた。生徒全員がグループごとにひとつのターゲットを担当し、現在の達成状況に関するデータを読み解き、達成のためのアイデアを提言し、期待される効果について根拠を示す。高校2年の学校設定科目「Global Studies II」（1単位）では、2017年度は地域の防災をテーマに課題研究を実施した。

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌である国際係の中にユネスコスクール担当を設置し、生徒のユネスコスクール活動、甲府ユネスコ協会との折衝、同協会の会合での活動報告などに当たっている。

- ③ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

学校のホームページにユネスコスクールとしての活動を写真と共に掲載したり、甲府ユネスコ協会の報告会へ参加した。活動を定期的に更新しているので、様々な方面からお声をかけていただき、また、新たな活動を提案していただくことがあった。

- ④ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

- ② ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

学校のホームページにユネスコスクールとしての活動を写真と共に掲載したり、甲府ユネスコ協会の報告会へ参加した。活動を定期的に更新しているので、様々な方面からお声をかけていただき、また、新たな活動を提案していただくことがあった。

- ③ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

9月に高校1年グローバルスタディーズクラスの生徒全員を対象に研修旅行を実施した。地球環境パートナーシッププラザの協力により、国連大学を訪問しSDGsについて学習する機会を得た。その後、JICA地球ひろばにて、青年海外協力隊の国際貢献について学んだ。また、同クラスは7月から「わいわいコンソーシアムやまなし」が実施する中心市街地活性化アイデアコンテストに取り組み、1つの作品がグランプリを受賞した。

- ④ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

愛知県立刈谷高等学校を訪問し、ESDをどのように実践しているか視察した。特に、課題研究における探究基礎の指導方法について学ぶことができた。また、富山国際大学附属高等学校より2名の教員が本校を訪問し、主にICT活用や英語教育について話し合う機会を持った。

- ⑤ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

中学1年の総合学習において、地域の住民と連携してハザードマップを作成する活動を行なったところ、校内では地域の一員として防災意識を高める必要性を認識することができた。また地域住民の側では、近くにありながら関わりが薄かった本校の教育内容について理解が深まった。このように、地域社会との連携を強めることができたのは大きな成果であった。また、高校生の課題研究を通して、社会と繋がり主体的に参画する意識が高まった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

SDGsに関する学習を高校1年生全員で実施する。これまでは、文系クラスのみでの取り組みであったが、今年度は理系クラスを含む全生徒がSDGsについて学ぶ機会を持つ。本校の理系課題研究は、環境科学を主な探究の領域としていた。本校では環境科学を「自然を知る・自然を守る・自然を生かす」と定義し、その領域における課題研究の指導を行ってきた。一方で、文系クラスについては、社会科学的な方法論でSDGsに関する課題研究を進めてきた。しかし、実社会においても、SDGs達成のためには文系・理系を問わず様々な分野で活躍するイノベーターが協力し合うことが必要と認識されつつある。よって本校でも、高校1年生全員を対象としてSDGsについて知る機会を持つことにより、持続可能な社会の構築に主体的に参画する姿勢を育成することに勤めたい。